

行事名称	第97回技術者倫理研究会例会
開催日時	2022年1月25日（火曜日）18:30～20:30
開催場所	（TeamsによるWEB講演）
主催	公益社団法人日本技術士会登録 技術者倫理研究会 engineeringethics-studygroup
参加者	全国で167名参加（うち北陸本部参加者14名）
演題	日本の安全文化は国際慣行とどこが違ったか
講師	杉本 泰治氏 技術士（化学）
講演資料	あり
内容	<p>日本育ちの安全文化は、日本の産業を支え、日本経済の高度成長を実現する成果を挙げたが、国際慣行の安全文化と比べ、どこが違い何が足りなかったか。</p> <p>1. 日本の技術者倫理の始まり</p> <p>2. 三つの事故と日本</p> <p>(1)1986年からの一時期に起きた三つの事故は、西洋社会を震撼させ、その衝撃で精魂傾けて安全確保に向かった。</p> <p>①スペースシャトルのチャレンジャー事故。②原子力のチェルノブイリ事故。③再びスペースシャトルのコロンビア事故。</p> <p>(2)日本では、三つの事故とそこからの安全文化の展開への無関心が、福島原子力事故までの25年間、安全確保の大切な部分を空白にしてきた。</p> <p>(3)安全文化を理解するための五つの関門</p> <p>①チャレンジャー打上げの意思決定。②チェルノブイリ事故—安全文化。③チャレンジャー事故の組織問題。④コロンビア事故および以降。⑤NRC積極的安全文化。</p> <p>3. 日本の課題</p> <p>課題1 規制行政は安全確保を支配する要素であるのに、正当な関心を欠く。</p> <p>課題2 技術者と経営者の、目標の相反による対立の合理的解決。</p> <p>課題3 日本人は、総じて正直で勤勉で安全を指向して働くが、それでは足りない。自分で考え、行動するという「個の確立」を必要とする。</p>
所感	<p>日本における技術者倫理の第一人者のお一人である杉本泰治氏の講演で、多数の参加者があり、日本における技術者倫理の始まりと取組み、海外との相違について解説、今後の日本における技術者倫理の課題について指摘・講義いただいた。講義後の質疑応答もこれまでにない熱い議論となり、技術者倫理を学んでいく上で、非常に参考になった。</p>
記入者：2022. 1. 26 倫理委員会 阿部治彦	